

和泉観光ボラだより 第18号 2018.3発行



観光ガイドへのお問い合わせ先は下記にお願いします
〒594-0071 和泉市府中町 1-19-9 (和泉府中駅前)
和泉市いずみの国観光おもてなし処 気付「和泉観光ボランティアクラブ」
TEL : 0725-40-5552 FAX : 0725-40-5553



第6回和泉観光ボランティアガイド養成講座が終わりました

平成16年度に実施されたガイド養成講座は和泉市役所主導で平成22年度の第4回の養成講座まで続きました。和泉観光ボランティアクラブ(観ボラ)は、平成17年に1期生有志によって立ち上がり平成29年度は8代目の会長に引き継がれています。

市の観光行政の改革で観ボラは平成26年度に生まれたアピール課のご指導の下で活動することになりました。文化財振興課との連携関係も強まりました。

平成27年度にはアピール課の支援をいただきながら自主企画による観ボラ主導の第5回ガイド養成講座を実施しました。平成29年度に第6回のガイド養成講座を行い、講座修了者の中から現時点で通算91名が観ボラに入会し時代と共に増減しますが、平成30年度は30名強の体制でスタートする見込みです。

学習・研修を積みながら「観光ガイド」「出前講座」「行政が企画する行事の支援」などの活動は「文化・歴史・自然や環境・商業・産業・科学技術」など対象は多様です。

行政に関わる各部門や団体、寺社やボランティア間の幅広い連携や交流を続けてきました。

会員の持味を生かして「自分らしく」我が町の魅力を伝え続けてきました。平成26年から始めた出前講座では和泉市民が「我が町ってこんなやつたんや。民話っておもしろい」と感じていただく場面。「自分達の地域の映像化してみたい」の反応には無料で写真提供して下さった出版社をご紹介したこともありました。

交流のなかで教わることもありました。そんな13年間・14年目に向けて第6回のガイド養成講座を実施しました。

第6回和泉観光ボランティアガイド養成講座の受講者は「興味がある」「知りたい」「ガイドをしてみたい」の意識を感じさせる人たちでした。そんな気迫が感じられる中で、開講式が始まりました。

何より印象的だったのが、流ちょうに話すことにこだわらず「自分らしいガイド」を心がけているのが望ましい・・・が開講日の講師の方々のアドバイスでした。通訳ボランティアの方々も聴講してくださいました。

新たな試みとして、英語、中国語の講師を招いてガイドの手ほどきをしていただきました。インバウンド対応を視野に入れてのことです。16名に修了証が手渡されて講座は修了しました。

6期生を交えての楽しい平成30年度の活動が始まります。

いつでも和泉市をご案内をさせていただきます。ご用命下さい。

観ボラだより編集委員会

お知らせ:3月には和泉市アピール課主催で「英語講師、中国語講師による実践ガイド講座演習」が予定されています。



講義風景



池上曾根史跡公園での学習



和泉黄金塚古墳頂上での講義



西教寺本堂の見学・学習



佐竹ガラスの工房見学

にうつひめ

世界遺産 丹生都比売神社を訪ねて

森井 豊

平成29年4月1日に父鬼バイパスと鍋谷峠道路が開通したことにより高野・山麓エリアとの移動が快適になり時間も大幅に短縮されました。これにともなって、和泉市と姉妹都市提携している、和歌山県かつらぎ町との間を日祝限定で2018年3月まで試験的にバス運行をしています。

観ボラでは乗り放題券を利用して12月17日に世界遺産に登録されている丹生都比売神社に参拝しました。お忙しい中で宮司自ら、「目から鱗」の解説をしてくださいました。食事をして買物し、帰路のバスを途中下車した立ち寄り組は、くしがきの里でさらに買物。バス待ち時間に地元喫茶でワイガヤも。持ち帰るもの多き一日になりました。

丹生晃市宮司からお聞きしたお話

◆観光の始まりはお蔭参り。観光は「光を観る、国の光を観る」。伝統文化は神社と寺にある。参拝して「神の光を観る、仏の光を観る」。太陽・大地・水・風・等々、豊かな自然の恵みを受けて衣・食・住を得て感謝し、荒ぶる自然と折り合いながら調和してきた。地産地消⇄地消地産の交流も。

食事や買物、地域や地域の人々と接して「自然と地域の光を観る」。聞き逃すまいと聴き入りました。

◆紀伊山地の霊場と、参詣道として丹生都比売神社を含む紀伊山地一体が世界遺産に登録されている。まずユネスコは「日本古来の信仰神道とインドから東アジアに伝わった仏教がこの地において融合し、現在まで1200年にわたってその関係が続き、それらの文化的景観が残っていること」をあげた。

その関係を「ユニーク(他に類がない)」と評価している。「世界の動きは困ったもの」は筆者の感想。

1200年前のその時に、弘法大師空海によって高野山が開創された。弘法大師は真言密教の修験の拠点として神々の鎮まる山、高野山に求めた。まず守護神として当社の神である丹生都比売大神(にうつひめおおかみ)と高野御子大神(たかののみこおおかみ)を祀る社を建てた。

これが日本における「神道と仏教の融合」の始まりとなった。

当社の創建は1700年以上前。応神天皇により社殿と紀伊山地の北西部一帯という広大な土地が神領として寄進されたと伝えられている。丹生都比売大神の「丹」は丹砂(たんしゃ)の鉱石から採れる朱を意味する。古来、朱には魔除けの力があり、今でも神社仏閣の建物には朱が塗られたものが多いのも、この魔除けのため。

興味深いエピソードを交えたお話しでしたがエピソードは紙面に収まり切れません。残念・ゴメン…



第19回和泉弥生ロマンツアーウオークのボランティア

水 智弘

2017年10月14・15両日に行われたツアーウオークの中で、春日神社(三林)の宮司様から「ロマンツアーウオークに参加される方にはできる限り、ご参拝されるように…」とお話をうけ、コースマップ上に、観ボラガイドの配置マークを入れていただき、各ポイントで一ロガイドを実践するポスターを作成し、当日は、ポスターを首からぶら下げて案内しました。

参加者は境内を通り、ほとんどの方が参拝されていました。

遠方から参加されたご夫妻が、ウォーク初日は「西国巡り槇尾山大自然の40kmコース」に参加され、春日神社でポスターの「狛犬」を探してくださいとガイドをしました。

翌日の「葛葉伝説たんのうの25kmコース」で、池上曾根史跡公園の「イダコのタコつぼ」のガイド時に、前日の参加ご夫婦とまた巡り合い、「狛犬を探して楽しんだよ、今日はたこつぼかえ？」と話しかけられ、ツアーウオークのロマンと心の繋がりを感ぜさせられました。

観ボラとしては他の場所でもボランティアを行ない、メンバーそれぞれが「おもてなし」と共に改めて学びの場でもあることを実感できた充実の二日間でした。



参加者集合風景(上)とボランティア活動(下)

“我が町を知ろう”信太の森・小栗街道散策

森井捷子

ガイドを依頼した“年輪20の会”は和泉市の年輪大学のOB会で、筆者もその会員です。ウォーキングを兼ねて各地に出かけていますが今回は観ボラ任せのガイド依頼になり信太の森を散策することにしました。

平成29年10月11日 午前はガイド依頼が多い“信太の森・小栗街道散策”を観ボラがご案内しました。

午後は“年輪20の会”の企画で、池上曾根史跡公園で弥生時代を体感し、大阪府立弥生文化博物館で学芸員の解説を聴きながら展示を観ました。

地元育ちの仲間の話題も織り交ぜて午前・午後の2部構成の“我が町を知ろう”は盛り上がりました。

信太の森周辺の地図に、お勧めガイドポイントの写真を配置し、当日ご案内するコースを鎖線で囲った手作りのガイドマップを、幹事にお渡ししておきました。

ご案内したコースだけでなく、信太の森周辺の魅力を感じてもらって次のガイド依頼の参考にしたいだけではないかと期待しています。

午後の部 年輪20の会の企画



池上曾根史跡公園



大阪府立弥生文化博物館

稲作が伝来して定住生活が進むにつれて、村づくり、国づくりが始まりました。縄文人と渡来人が融合したのが日本人のルーツとも言われます。史跡公園で弁当を囲んだ後、博物館に向かいました

午前の部 観ボラがご案内



出発

JR北信太



葛葉稲荷神社



信太貝吹山古墳



旧府神社



佐竹ガラス



一の鳥居
篠田王子



八坂神社
高礼場



西教寺



小栗の笠掛け松
照手姫の腰掛石

JR信太山

“我が町を知ろう”と題して人気スポットを回りました。気力・体力・時間に合わせて参加者が持っているネタも話題にしながら散策しました。

宮司不在の旧府神社に宮司が着任されなんと年輪20の会のメンバーでした。

古代人を魅惑した銅鏡～和泉黄金塚古墳出土「画文帯四神四獣鏡の謎」

講師：水 智弘

11月TRCシティプラザ図書館主催 第2回郷土学習会を2017年11月5日に開催しました。

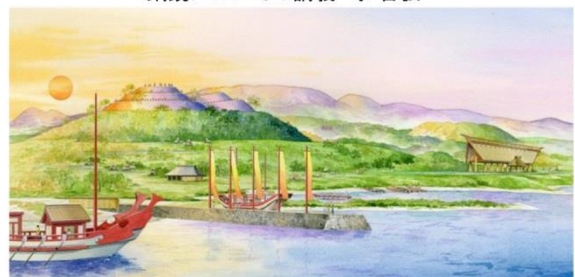
いずみの国歴史館より「画文帯四神四獣鏡」のレプリカを図書館が借り受け、関連書籍も合わせてコーナーを設置したところ、来館者より「触れてみたい」との希望も多数あり、図書館来館者・学習会受講希望者に好評な前宣伝となりました。

講師は、貫頭衣(弥生文化博物館所有)を着用し、「鑑」と「鏡」の共通点・相違点の説明から、悠久中国の銅鏡歴史まで掘り下げ、出土鏡の「銘字」を根拠の、魏国製か倭国製かの学会論争の解説、更に、魏の皇帝から卑弥呼への下賜鏡の時代背景や、洛陽出土(2015年)の「画文帯同行式神獣鏡」の、作鏡職人の知恵までも推理し、会場一体となり古代の歴史や作鏡地域の謎に迫りました。

男子小学生からのアンケートでは、「まきょうとはなんですか?」の質問があり、TRCスタッフの方と共に回答し、関連図書の紹介もいたしました。



銅鏡についての講義 水 智弘



和泉市文化財振興課資料 黄金塚古墳想像図

「国学の祖 契沖を支えた村々」

Y. I

契沖の足跡を訪ねる企画が、2017年11月18日と2018年1月27日の日程で、二地域で行われ参加しました。

第1回目は「契沖の愛した久井の井戸」と題して、和泉市久保惣美術館から久井町にある契沖旧居、遺愛の井戸、契沖ゆかりの地蔵寺をめぐる約3.5kmのルートでした。

当日午前中は雨模様でしたが、開催時間には丁度雨もあがり、参加者はウォークを楽しむことができました。久井町では遺構を大切に守られている個人邸の敷地に入らせていただき、契沖ゆかりの井戸が見学できました。その後久井町会館で契沖研究会会長の吉原栄徳先生を講師としてお招きした講演「契沖学の基を成した久井」に耳を傾けることができ、久井の地の学問への意識の高さや、心の豊かさを感じることができました。

第2回目は「契沖と万町村・伏屋家」と題して、中央公園を発し石尾墓地に所在する伏屋家の歴史の重みを感じる墓所に立ち寄り、石碑「国学発祥之地」(石尾中学校正門前)を見学し、大阪府史跡 契沖養寿庵跡をめぐる約2.5kmのルートでした。当日はお天気もよく参加数も定員50名を大幅に超える盛況さでした。ルートは公道を歩く必要があり、整列歩行をお願いするなど参加者のへの注意喚起を行い、安全確保に気遣う場面も多かったです。

契沖養寿庵跡では旧伏屋家の敷地内に入らせていただき、契沖も眺めたであろう庭園の古の情景を想像しながら見学しました。

その後万町町民会館で和泉市史編さん調査委員であった羽田真也氏をお招きし「伏屋家と万町村—契沖を支えた家の姿」の講演に耳を傾けました。

伏屋家の領地経営に関わる古文書「俗邑録」は、経営の有能さを今に伝える内容とのことです。その対比として契沖に関わる文書は殆んどないとの事ですが、「人を育てることは当然のこと」との意識も推測でき、伏屋家の奥ゆかしさ・心のゆとりを感じさせられます。

2回の歴史ウォークを通じて感じたことは、和泉の地で契沖が10年を過ごし育まれた、久井村と万町村の学問・信仰の豊かさ、そして民格の高さです。契沖のこれらの体験も基礎となり、後の活躍に繋がっていると改めて感じさせられました。



契沖遺愛の井戸と碑



吉原栄徳先生による久井町・契沖の講演



国学発祥之地の碑



旧伏屋家屋敷



羽田真也講師による万町・伏屋家の歴史講義

日本にもイタリアの天文学者

講師：細川陽徳

TRC和泉図書館第7回郷土学習会が、2017年11月21日(火)に行われました。和泉とイタリアの天文に関わる二人の偉人の共通点を探った郷土愛に満ちた講演です。「日本にも、天文学者で物理学者・哲学者でもあったガリレオ・ガリレイになぞらえた人物が、ここ和泉にいたのです…！」「そんなバカな！」怪訝そうな皆さんの顔。

「いやいや！物語観光での想像を豊かにしたお話でございまして…」「実は和泉に伝わる伝説、葛の葉物語りの安倍晴明さんなんです」「晴明さんは陰陽師であり天文道の第一人者でもあり、五穀豊穡を願い暦を作ったとの俗説もあります！ガリレオより約640年も前の想像を広げたロマンです」「なるほど！」講義を聞き、情景を思い描いて、会場に参加者のホックリした笑顔が広がったのでございます。 肖像画出典：ウィキペディア



編集後記

今号より、はじめて編集委員会を発足させました。魅力ある和泉市を、より皆様にお伝えできるパンフレットにするよう、観ボラメンバー全員でアイデアを出し合い、明日に繋がります。編集委員長 渡辺廣史